

大学共同利用機関法人自然科学研究機構
教育研究評議会（第39回）議事要旨

1. 日 時 平成26年3月19日（水）10：45～13：00
2. 場 所 自然科学研究機構事務局会議室
3. 出席者 佐藤議長、井上評議員、金子（章）評議員、郷評議員、笹月評議員、
佐藤（哲）評議員、廣田評議員、飯澤評議員、観山評議員、岡田評議員、
林評議員、山本評議員、井本評議員、大峯評議員、金子（修）評議員、
鍋倉評議員
（陪席者）
武田監事、竹俣監事
（事務担当者）
増田事務局次長、亀原総務課長、新地企画連携課長、長谷川財務課長、
国立天文台佐藤事務部長、核融合科学研究所川畑管理部長、岡崎統合事
務センター穴沢事務センター長及び南財務部長 他
（研究成果発表者）
秋山 修志 教授（分子科学研究所）
4. 配付資料
 - 1 教育研究評議会（第38回）議事要旨（案）
 - 2-1 大学共同利用機関法人自然科学研究機構年度計画（平成26年度）（案）
 - 2-2 平成26年度自然科学研究機構予算編成方針の平成26年度計画予算への反
映状況
 - 2-3 各機関ごとの予算比較
 - 3 平成26年度 生理学研究所の組織改編（案）について
 - 4 大学共同利用機関法人自然科学研究機構経営協議会外部委員候補者（案）
 - 5 「年俸制導入促進費」の配分～執行までの流れ【イメージ】
 - 6 自然科学研究機構シンポジウム（第16回）パンフレット審議終了後回収 名誉教授関係資料
5. 議事等
議事に先立ち、定足数並びに配付資料の確認があった。
 - 1) 前回議事要旨（案）について
前回教育研究評議会（第38回）議事要旨（案）（資料1）が了承された。
 - 2) 平成26年度年度計画（案）について
観山評議員から、資料2-1から資料2-3に基づき、平成26年度年度計画（案）

について説明があり、審議の結果、案（資料2-1）のとおり了承された。

（主な意見等は以下のとおり）

- （笹月評議員）国際情報発信の推進を図るという説明があったが、大学共同利用機関として、機構は、国内の大学との連携、あるいは共同研究と外国の大学等との連携についてどのように考えているのか伺いたい。
- （観山評議員）外国の大学等との連携については、機関によって違いはあるが、例えば国立天文台の共同利用の研究課題は、全て国際公募で行っている。すばる望遠鏡を用いた研究課題が採択された場合、国内の共同利用者の旅費は国立天文台が負担するが、外国の研究者の場合は負担していない。
- （金子（修）評議員）核融合科学研究所では、協定に基づく国際協力事業（日米、日欧、日韓、日中など）の代表として、実施している事業と、国際エネルギー機関（IEA）の多国間の事業のいくつかの代表として実施している事業がある。
- （笹月評議員）文部科学省の世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）では、第一線の研究者が是非そこで研究したいと世界から多数集まってくるような、優れた研究環境ときわめて高い研究水準を誇る「目に見える研究拠点」の形成を目指しているが、ある大学では、海外の学会が実施しているシンポジウムの運営を全てまかなうといった取組みを行っている。機構においても国際情報発信の推進という観点では、同様の取組みが若者へのアピールになるのではないか。
- （観山評議員）これまでもそれぞれの機関において情報発信は行ってきたが、機構としてのアピールを含め、若者へのアピールを引き続き努力していきたい。
- （佐藤議長）今のご意見は、第三期中期計画期間に向けた大きな課題であると認識しており、長期的にみても国際連携は不可欠であると考えている。また、研究力強化に向けた4つの目標の1つとして国内外への情報発信・広報力強化を掲げたところである。
- （郷評議員）研究力強化事業において、女性研究者の割合の数値目標を掲げているが、それを研究力強化とどう結びつけるかが課題と考える。若手研究者をプロモートするような機構の取組みについて伺いたい。
- （大峯評議員）これまでの機構の男女共同参画の取組みは十分とはいえなかったが、第二期中期計画期間となり、アクションプランを掲げて男女共同参画を推進してきた結果、ようやく大学レベルになってきたと考えている。今年度、機構は、研究分野を限定せず天文学、分子科学といった大きな分野を対象とした女性研究者に限定した公募を行い、その結果、優秀な研究者を集めることができた。この公募は、機構の研究力の強化につながる取組みであると確認ができたので、今後、更に女性研究者の増加に向けて取り組んでいきたい。
- （井上評議員）URA職員を活用する機構の取組みは非常によいことだと考えるが、一方では任期付で雇用される方が増えていくと想像することができる。先ほど説明のあった大学研究力強化ネットワークなどにおいて、URA職員のキャリアパスについて、大学と機構のような研究機関が共通して、URA職員という

職種が是非必要なんだという認識のもとに、いいキャリアパスを是非機構で考えていただきたい。

- （岡田評議員）機構のURA職員の制度では、研究教育職員等からURA職員に配置換え又は併任することができることや、URA職員から研究教育職員等に配置換えすることができるようなシステムとして整備した。大学研究力強化ネットワークを利用して他の大学に紹介していくことを考えている。

3) 生理学研究所の組織改編について

井本評議員から、資料3に基づき、生理学研究所の組織改編について説明があり、審議の結果、案のとおり了承された。

4) 名誉教授の称号授与について

事務局から、機構の名誉教授に関する称号授与に関する関係規程の説明があった後、審議後回収資料に基づき、名誉教授称号の授与候補者の所属する機関の評議員から説明があり、審議の結果、案のとおり了承された。

5) 経営協議会外部委員について

佐藤議長から、資料4に基づき、経営協議会外部委員について説明があり、審議の結果、案のとおり了承された。

6) 年俸制導入促進費について

事務局から、資料5に基づき、年俸制導入促進費について説明があり、審議の結果、導入に向けて検討を進めることについて了承された。

7) 自然科学研究機構シンポジウム（第16回）について

林評議員から、資料6に基づき、3月8日（土）に名古屋市科学館サイエンスホールにおいて開催した自然科学研究機構シンポジウム（第16回）について報告があった。

8) 国立天文台TMT計画について

林評議員から、国立天文台TMT計画について、参加メンバーであるカナダにおいて平成26年度の関連予算が措置されず、全体計画の見直しを行っているところであるが、日本の計画は予定どおり進めていくことでTMT計画を推進していく旨説明があった。また、平成26年2月に機構長が署名する予定であった国立天文台TMT国際観測所主合意契約書については、平成26年4月以降に署名する旨説明があった。

9) 機構の最新の研究について

本機構の最近の研究成果について、分子科学研究所の秋山 修志 教授から「タンパク質分子に秘められた概日性鼓動」と題して発表が行われ、意見交換があった。

以上